

## 不登校と体力・学力・コミュニケーション能力の関係



不登校の原因は一つに限定されるものではなく複合的です。学校では様々な能力が要求されます。ピアノ教室であれば必要な能力は音楽に限定されて、レッスンも1時間程度です。言ってしまうと、その時間さえ我慢すればどうにかになります。また、習い事であれば合わない先生を替えることもできます。しかし、学校はそうはいきません。朝から夕方までの長時間、ありとあらゆる能力が必要とされます。さらに、そばにいるのは精一杯頑張っている同級生たちです。学校はたった一つのことができればよいという単純なものではありません。逆に言うと、たった一つの原因で不登校になっているわけではありません。原因は友人関係だと思っても、実はその後ろに体調不良や疲れがあったり、勉強が分からなかったり、空気が読めなくてトンチンカンな反応をしてしまうなどといったことが隠れています。さらに家では、自分が困っていることを親が理解してくれないなど。一番大きい原因が友人関係だとしても、いくつかの要素が重なっています。その重なりが幾重にも増したときに、子どもは学校に行かないという決断をするのです。

学校生活は朝から夕方まで、一日動くだけの体力が必要です。授業中は学力が求められます。勉強が難しくなってきた。とても時間内にできない。宿題も多いなあ。「そんなこともできないの！」と友達に馬鹿にされることもあります。人と一緒にいると疲れるから、一人のほうが楽。でもずっと一人ぼっちではさびしいから、友達に寄っていくけれどどうも思ったように相手は反応しない。どうして意思が伝わらないのかなあ。何を話したらいいかわからない。

不登校の原因は、これらすべてを合わせた力にどこか足りないところがあって、他のすぐれたところをもってしても補うのに十分でないからだと考えてみると、子どもがどうして不登校になったのかが見えてきます。

出典：「不登校になったら最初に読む本」 小林多賀子著 (株)クロスメディアマーケティング

## 「・・・?!」 シャイニングクラスの新たな展開

年度が替わり2カ月が経過しました。シャイニングクラスも新たな入級生を迎えるなど、変化がありました。年度初めこの生徒たちは、何とか学級に入って勉強しようという気持ちも強かったのですが、徐々に入りづらさが募ってしまったのかもしれない。気持ちを固めて当教室に足を向けてきました。入級の理由をきいてみると、やはり進路を意識しての勉強を挙げています。特に2年生の生徒も「入学したい高校があるので来ました。」と、自分の気持ちを語ってくれました。



数学の授業 (6/12)

年度当初我々相談員は学校訪問で、シャイニングクラスをPRしてきました。それを受けて現場の先生方は、生徒の気持ちも理解しながらうまく足が出るように仕向けてくださったのだろうと、その心労を察しています。

さて生徒たちの雰囲気は？というところ、意外な一面が見えてきました。通級日以外でも生徒同士が交流し、貴重な友達になってきているのかもしれない。また、お互いの刺激が相乗効果をもたらしているのか、毎日登校し続けているところも大きな驚きです。しかも夏の制服を着用し、学校の様子を話すことに何のためらいも見せなくなりました。学校に対するアレルギーがどんどん減少していて次の段階が楽しみなようです。

新しく入ってきた生徒とどのように溶け込み、どのように刺激し合い、どんな風に変容していくのか心配でもあり、大いに期待もしているところです。

## さまざまな体験活動 (ものづくり・キャリア教育) を通じて

ブラックウォール、バランストンボという言葉からどんなものを想像しますか。6月4日にブラックウォールとバランストンボ作りをしました。削ったり、組み立てたり、また削ったり。3人ともとても器用で、教え合ったり見せ合ったりしていて、一緒になって間がないのに、仲間意識や助け合いの気持ちが育っていていいなあと感じた時間でした。



壁があるのに鉛筆が・・・  
ブラックウォール

進路選択や進学先決定に向けた話は日頃から朝の会で話の端々に出すようにしていましたが、6月18日に進路学習を行いました。人生80年時代を少しでも意識し、将来に夢を持ち、高校生活に憧れて進学先を考え、決定し、進んでほしいという願いで。制度や各高校の特色・過去の体験談等を伝え、目標を持って生活することや生活リズムの確立すること等の大切さに気づくようにしました。将来就きたい職業や学びたい分野・高校名を具体的にみんなの前でしっかり話す姿に強く成長を感じました。先生方の話をたくさん聞いてよかった。これからも入試に向けてがんばっていききたい。自分の将来を考えることが出来てよかった。ちゃんと考えます。などと感想を書いています。



竹で作ったバランストンボ

少ない学習時間なので、教科担当者はさまざまな工夫をしながら進めています。最近では難易度の高い学校を目指す人もいます。「単元テストなので英文の範読をお願いします。復習やテスト勉強を頑張ります。」という、ちょっぴり驚きの嬉しい発言を多く聞くことができた6月でした。

少ない学習時間なので、教科担当者はさまざまな工夫をしながら進めています。最近では難易度の高い学校を目指す人もいます。「単元テストなので英文の範読をお願いします。復習やテスト勉強を頑張ります。」という、ちょっぴり驚きの嬉しい発言を多く聞くことができた6月でした。

## 6・7月の活動 シャイニングクラス在籍5名

### < シャイニングクラスの学習 >

- 月曜日 理科、国語 ○ 水曜日 社会、英語
- 金曜日 数学、体育 ○ 木曜日 体験活動 (月2回)

- ◆ 体験活動④ 6月4日(木) ものづくりⅠ (ブラックウォール・バランストンボ)
- ◆ 体験活動⑤ 6月18日(木) キャリア教育



「キャリア教育」の授業 (6/18)



社会科の授業 (6/17)

- ◆ 体験活動⑥ 7月9日(木) 畑作業 (除草・土寄せ)
- ◆ 体験活動⑦ 7月16日(木) 絵手紙づくり
- ◇ 日新中学校との連絡会 5月29日(金)  
生徒理解を深めるために訪問させていただきました。
- ◇ 「気楽に話し合う会」 6月19日(金)  
4名の方の参加をいただきました。有り難うございました。

## あ と が き

先だって研修の機会があった。「不登校」について要約すると、「学校を拒否しているのではない。現在は心理的な“脱皮”の作業をしていると言える。しかも、車に例えると故障をしているのではなく燃料切れの状態である。個に合ったガソリンを見出し給油してやること。その上で車を学校に向けてやること。しかも道をつくって車を走らせてやること」ということだった。まさしくその話の通りである。相談員として基本的なとらえ方にぶれが生じてきていたのでは?と、反省させられる研修となった。生徒たちのあるがままをポジティブにとらえ、個々のガソリンを見出せるよう努めていきたい。

## 教育相談連絡先

- ダイアルなんでも相談  
TEL 23-7266
- 適応指導教室 (シャイニング)  
TEL 22-2111  
(内線 445、448)  
林、小野、鈴木が担当です。